

楽しく論理的読解力を育てるポイント



単元の導入で地元の新聞社の記者の話を伺い、情報を伝える側の思いや記者の仕事を知る。そして、「よりよいメディア・ユーザー」になってメディアを活用しようという意見文を投稿する単元のゴールを設定する。二つの教材文を比較することを通して、文章を分析する力を付ける。

1 単元のデザイン

単元の重点目標<本校で育てたい資質・能力との関連>

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 [知識・技能(2)イ]
- 目的に応じて文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等C(1)ウ] <論理的読解力>
- 積極的にメディアについて考え、学習に向かおうとする。 [学びに向かう力, 人間性等] <積極性>

教材について

本単元では、「テレビとの付き合い方」(佐藤二雄, 東京書籍)と「メディア・リテラシー入門」(池上彰, 学校図書)を使用する。

「テレビとの付き合い方」は、テレビの特徴を、それを受け取る側の留意点とともに述べたものである。調査結果のグラフを用いたり、簡単な図を示して具体的な事象を抽象化し、読者の理解を促そうとしたりするといった、筆者の述べ方の工夫がある。「メディア・リテラシー入門」は、テレビだけでなく、様々なメディアの特徴を筆者の考えとともに述べたものである。メディアの特徴を比較することを通して、読者にメディア側の意図を考えて情報を受け取るように促している。

この二つの教材文は、メディアの情報の受け手として送り手の編集の意図を考えて情報を得るべきであると主張する点で共通している。一方で、挿絵の取り扱い方や論の進め方には、違いがある。それらを比較することを通して、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考える力を付けたりすることができる。

児童について

評価テストの観点	単元前 正答率
○事実と具体例の関係を理解している。	63%
○文と文との関係を捉え、接続する語句を適切に選択している。	73%
○文章全体から筆者の主張を捉えている。	63%

本学級の児童は、5月から、輪番で新聞記事を自分で選び、その新聞記事を題材に朝のスピーチを行ってきている。新聞を使ったスピーチ活動に対しては意欲的な児童が多く、自分の順番が来たら忘れることなく、スピーチメモを書いてスピーチを行っている。

しかし、新聞の中の複数の情報を関係付けたり、図表を結び付けたりして文章を解釈する力は弱いと考える。

また、評価テストの結果からは、事実と具体例の関係を理解し、論の進め方を考えたり、文章から著者の主張を捉えたりする力が弱い児童が多いことが分かる。

指導について

指導にあたっては、まず、メディアに対する自分の考えをもたせておき、新聞記者の話を聞くことで、メディアと自分とのつながりを考えようとする意欲を喚起し、学びに向かう力の育成を図りたい。

また、複数の情報を関係付ける力を養うために、単元の構成として、まず、一つ一つの教材の文章全体の構成を捉えてから、どのように論を進めているのか、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めているのかを考えさせる。そして、二つの文章を比較させることによって、複数情報を関連付けられるようにしたい。

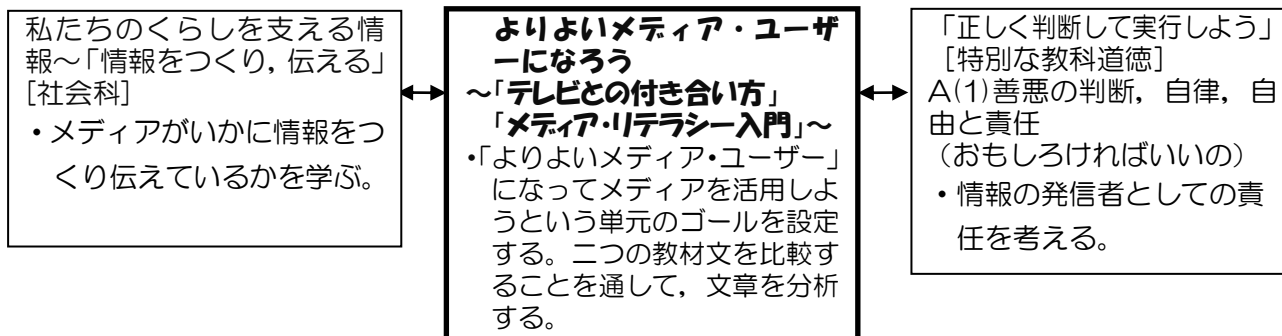
教材文の全文をA3、1枚の用紙にまとめることで、文章全体の構成を捉えやすくする。文章と図表を結び付け、理解を促すためにボールペンを使って、色分けをしたり、文章に線を引かせたりする。

ペア学習やグループ学習を行う際は、自分の考えを発信し反応が返ってくるように、聞いたことに対して感想を述べたり、同じ意見でも自分の言葉で説明させたりする等の工夫を行う。そうすることで、考えを深めるようにしたい。

2 単元の重点目標に対する評価規準

知識・技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学びに向かう態度
情報と情報との関係付けの仕方, 図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	目的に応じて文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けたり, 論の進め方について考えたりしている。	積極的にメディアについて考え, 学習に向かおうとしている。

3 他教科等との関連



4 指導計画 (全9時間)

次	学習活動(時)	評価			指導の留意事項
		知	思	主	
○ 出合い	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記者の話を聞き, 「よりよいメディア・ユーザー」になり, 地元の新聞社「ヤングスポット」に投稿しようとする意欲をもつ。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ, 話をさせていただく記者の方には, メディアとは何か, メディアとしての新聞の特徴, 編集の仕方などの話をさせていただき, みんなはどんなメディア・ユーザーかを問いかけてもらうようにする。

一 見直し	課題の発見（１） ・二つの教材文を読み，初めの感想をもち，学習の計画を立てる。			○	・二つの文章に対して，著者の主張をどう思ったか，論の進め方の工夫，分からないこと，疑問に思ったことなどを視点に初めの感想を書かせる。
二 構造と 内容の把握	課題の追究（５） ・二つの教材の論の進め方を考える。（２）	○			・まず，二つの文章の主張を捉えさせる。主張をより説得力あるものにするために，どんな事実が挙げられているかを捉えさせる。
三 精査・ 解釈	・挿絵の効果や文章中の問いと答えについて考える。（３）		○		・表を使って，挿絵と本文中の文章とのつながりや，問いとその答えの部分をまとめるようにさせる。
四 考えの形成・共有	学びの深化（３） ・精査・解釈したことを基に，二つの文章を比較し，自分の考えをもつ。（本時 7 / 9）		○		・文章を比較させることで，メディア・ユーザーとしての自分の考えをより確かにもたせるようにする。
	・自分とメディアとの関わりについて意見文を書く。（２）			○	・４００字から５００字程度の意見文を書かせる。 ・書いた意見文は，中国新聞に投稿する。

5 本時の展開

(1) 本時の目標

観点を基に二つの文章を比較することを通して、メディアとの関わりについて自分の考えをもつことができる。

(2) 本時の学習展開 (7/9)

展開 (形態)	主な学習活動と予想される児童の思考	教師の働きかけ ◎評価規準(方法) ◇配慮を要する児童への手立て
つかむ (全体)	<p>○二つの文章の主張部分を音読する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">二つの文章を比較することを通して、メディアと自分との関わりを考えよう。</div> <div style="border: 2px dashed blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 比較する観点 ①主張 ②論の進め方 ③挿絵・資料の使い方 </div>	<p>・二つの文章の主張部分を音読することを通して、それぞれの筆者の考えを確認する。</p> <p>◇観点を提示する前にどちらの文章が好きかを問い、教材文を想起したり、意見を出しやすい雰囲気を作ったりする。</p> <p>・比較する観点を提示し、共通点と相違点が挙げられるようにする。</p>
考えを出し合い、吟味する (個→グループ→全体)	<p>○主張が共通しているか、相違しているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通しています。わけは、両方ともメディアの意図を考える必要があると言っているからです。 ・相違しています。わけは、片方は伝えていない部分を考えて・・・、もう片方は、メディアがどんな意図で、どんな情報を・・・と言っているからです。 <p>○論の進め方について比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見えない部分と見える部分を事例に主張を強めています。 ・相違している部分もあります。わけは、池上さんの文章は、第一段落に問いかけがあるからです。 <p>○挿絵・資料の使い方について比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通しています。わけは、どちらも本文を分かりやすくしているからです。 ・相違しています。わけは、「テレビとの付き合い方」は、グラフを使って「テレビが一番」ということを強調しているからです。 ・相違しています。わけは、「メディア・リテラシー入門」の資料は、写真で話題を想像しやすくしているからです。 	<p>・両者とも「メディアの情報は編集されており、受け手としてそれを知って情報を捉えるべき。」と述べている点では共通していることをとらえさせる。</p> <p>・ペアで考えを出し合わせ、意見を言いやすい雰囲気を作る。</p> <p>◇テレビもメディアであることをおさえる。</p> <p>◇なぜ、黒い部分を切り取るのかを考えさせる。</p> <p>・文章構成図を振り返らせる。</p> <p>・尾括型の文章であることを捉えさせる。</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ・自分の意見がもてるように、論の進め方について4人で意見交流をさせる。 </div> <p>◇挿絵を提示し、挿絵と本文とのつながりを確認させる。</p> <p>・挿絵と本文との関係性に着目させる。(グラフで何を表そうとしているのか。写真や図で何を補足しているのか。)</p>



○メディアと自分との関わりについて感想を書く。

・今日の学習を通して、感じ取ったことを書かせる。
 ◎観点を基に二つの文章を比較することを通して、メディアとの関わりについて自分の考えをもっている。（ノート）

◎おおむね満足できる児童の姿

「テレビとの付き合い方」では、テレビには切り取られている部分があるって書いてあって、「メディア・リテラシー入門」では、すべてのニュースが編集されていると書いてありました。だから、私は、その切り取られている部分を想像しながらニュースを見たり聞いたりしたいです。

(3) 板書計画

自分との関わり	主張	挿絵・資料	論の進め方		
<p>これまで、白の部分（報道されていない部分）があることを考えなかった。メディアの意図を考えたことはなかった。白い部分を想像していききたい。メディアに主体的に関わっていききたい。</p>	<p>わたしたちは、白い部分のあることを忘れないようにしながら、テレビと付き合い方が必要がある。</p> <p>それぞれのメディアが、どんな意図でどんな情報を提供しようとしているかを常に考える必要がある。</p>	<p>挿絵・資料</p> <p>グラフ</p>  <p>写真</p> 	<p>事例↓白黒の図 伝えられていない部分 グラウンドで遊ぶという グラウンドいっぱい全体</p> <p>問いかけ↓答え 主体的に付き合っていく 同じようなものと思っていま せんか。</p>	<p>テレビとの付き合い方</p> <p>メディア・リテラシー入門</p>	<p>よりよいメディア・ユーザーになろう</p> <p>～テレビとの付き合い方 佐藤 二雄～</p> <p>～メディア・リテラシー入門 池上 彰～</p> <p>めあて</p> <p>二つの文章の比較を通して、メディアとわたしたちとの関わりを考えよう。</p>